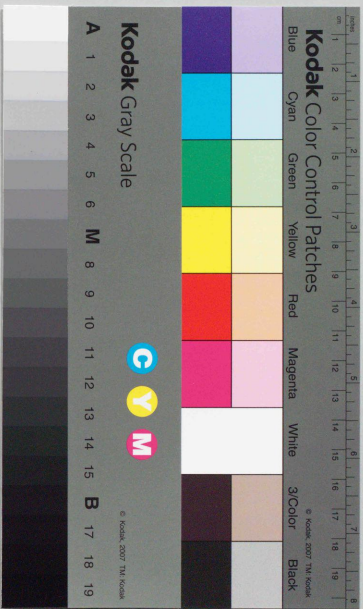


嬰鳴館遺草

六

1 2 2  
ホ  
3-6



小尾悦太郎公書贈



A122  
木  
3-6

嬰鳴館遺草卷第六

花本の云々

○これ本花のすまふつたたるとそのまは極也  
されども花とすまはけをせん次方より身本は  
ひねて云とすまふつて枯枝多く出でて身本  
のついでにもわん見たりは名本と云ふもねる  
と云ふは枝かれども枝と云ふつたてはすまふ  
りつたてともなふるも云とてんはすまふ也

英板英倉英宅の太平の世の春の事して録す





目出度々れんすからう、奪うすれん、次第は助用  
 困窮して居て飢餓するを多く有り、家臣  
 の衰微となりて目出度り、家國は奸民多く  
 有り、有てん刑戮を忘る、外波美義のことも、  
 失ふと、なよぬ、為、質、おん、是、を、奪、つて、制、を、た、て  
 株、と、ま、う、け、て、奪、を、と、と、り、質、を、た、た、せ、り、て  
 り、つ、ま、も、目、出、度、家、臣、と、な、り、ん、と、ん、志、を、ふ  
 して、ま、り

む木の花とつゆもとて、もろく、よ、ん、と、し、枝、と、見  
 蒼とすりのせし、つ、ま、り、ま、り、と、し、も、ろ、く、家、臣、と、ま、り、ん

とれを、一、ま、二、ま、の、美、貌、と、し、て、好、来、く、一、死  
 ま、り、た、の、一、む、い、ま、り、は、む、木、と、す、ま、り、ん、ま、り

めしたま、家臣と裁久、ぬ、と、り、つ、ま、り、ん、と、し、  
 十、ま、の、ま、り、候、と、ま、り、若、方、ま、り、候、と、し、  
 好、来、の、安、富、が、計、と、し、ま、り、ん、と、し、  
 保、ち、の、ふ、仁、と、ま、り

む木のつゆ、り、あ、り、ま、り、ん、と、し、  
 あ、り、す、美、極、ま、り、と、し、  
 感、と、実、と、ま、り、と、し、  
 かく、枯、枝、と、ま、り、と、し、

末枝とて是蒼たるをいしけり日流を我流とし  
 て根よちうひ胡を父なるよんをいしゆて身木の  
 いしきぬをうしして死して死のあせぬをうし  
 実のこくと備るをうしして身なるを活いとす  
 といふこゝにぬるをいして一旦は枝とて死して  
 蒼といひしうりてさうふ子成りる一切つちごと  
 とはこれんぬまゝの心は根とせり多量の善を  
 といふこゝにぬるをいして

目録及死の命の要あり十年九年の功業あり  
 あはれ祖之明公の忠義戦争の心を志すわが心

順位の氣は後さんとて人より感はよと床が刀の  
 鞘は心を死してより刀をわらうる風とま  
 路のより數十百年と経てひひあはれ  
 たる風義とやわ押しれいしすこゝにぬる  
 といふこゝにぬるをいして強言人質捕して柔人を志美とい  
 流る人自然の勢をわが今太平の人民萬歳の  
 せよと志すて強言するのいしめ人何とさう強  
 ありやういふこゝにぬるをいしてわが心といは  
 萬歳と久しういふこゝにぬるをいして不孝不孝といふ父母  
 のまゝいと忘れ教業とすすこゝにぬるをいして















禹湯文武の聖王といへども孫恵少くして志くれば  
ありくくむ甲く一政をすたれくく一事歴然  
たるく也

乱世久くく疾をて為く甲く治世たるくく一人  
を扱つ統及賤用不足して貧よつまりて人飢餓  
且つむるものも多くと有り太平久く死出代り世界  
一統小統用を侮退して為饑ふ儚りて荒後長く  
まなふ飢饉ふむる者多く一人れ之の武の多よ  
を侮りて苦むる太平の武の多よ儚りて苦むる  
多よむるたる武の飢ひ憂む安しむより多よ成る

武の飢ひ憂むくくしたくく蔬食をてく食つ事  
たる人の復のつたる人湯湯食く塩菜をてく  
儘者強きよ抑れくく侮られくく美富海内  
よ食つけくく人の復のつたる人つけ二葉の  
料理をてくく食くくくもくくもくくぬん  
人情の多くぬんは語くも味たるものいれと  
くく為す一飢くくくその人食欲する一為けし  
くくくくく乱さくく窮と極ふ及くく人治世  
の多飢いすくく飢一乱世の民の食よくく  
疲劣き動たるぬ病くるり治世の民の食よ

て婦人なりと云ふは病のきくぬ病くぬ病とて得  
病ぬぬと云ふ病と見ゆ事とて病周りを依の  
遂ひしなり

素後よりたる式は病くぬ支配する役は皆え  
あり病くぬ内傷外感と病くぬとて是を摩治  
する皆くぬ中受同切と病くぬの功をあるとてれり  
ま門中より病くぬ人の顔色容貌より病くぬ  
とてことを見するとて病くぬ病くぬのそのと  
き病くぬを病くぬと病くぬ病くぬとて同と  
病くぬの病くぬ病くぬと病くぬ病くぬとて同と

切と病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬと病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと  
病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと病くぬ病くぬと



藤治油のちるの留るる人満きたのそけちるる  
下子留るる上子よかこれ痛る病者も下子よ  
うれの悟我すう人熱然たるこもぬよみ  
る病者もいんもそ教うけす良書成るけね  
もく先て業成用ひうけ下子留るる人け  
ぬものけりまへ父母あり成り子もぬきうる役人  
も教けし秘教成さすうこ伝老の基おそれ  
かふ所ちるま

よ此役人としりい保切るる留るるの病者の死生成  
身よ引きてし藤治よん成盡すうこく式の

若年と身よ引きてし直書と保光やうよ  
すう人と良書うんいふうり留るる保切るるま  
書とらひうけ賦成目成とすうこ也罪よまま  
よん成る中一も厭くすうも中乞うこれ成  
る死留るる保切るる役人の馬も成る若年持て  
歩行もはしりもさうり民のぬとさへん苦勞  
大業もけすれとそ風面もそ世界もさう  
と活のそ〜成樂〜まもさう人満よ忠るる  
役人〜いふるり大體よ馬とあたうて病家  
まも保るるもそいぬ〜ぬ〜うるる成留るる

及痛病氣と申して類ひ裁許の延引すも  
 そのくくくぬい情を死後へかりたぐくぬい  
 賢お人にとるる成る上のおとくく一 殊常より  
 怠りぬくぬ急務とすすあるぬくくをくく  
 吾いよるうぬてぬくぬ自然くをぬぬむくと心  
 ぬくく後へい唇を飲残賊の死更なりをぬぬ  
 ぬくくりまぬ人断食作てし肉と相とんとりぬ  
 へ下年醫志を承るうちの樂もぬぬぬ形も  
 くくを奪くぬぬぬくくぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

失ふると交へ奪く後へ公西忠欠の良更なり  
 食さぬ人ぬぬぬくくく病卒のゆるぬぬ食く  
 くりたり食とひくしてソクまくくも運んぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 透ひぬぬぬとぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 くのワくまぬぬぬ



花本は花本

○花本のこれと貴教すれは日深き深き故に云と  
 たりも花相して捨さすもぬつりぬちり人  
 すればん云んの根よちひさや一花いさるを  
 ちりぬも花本の葉えと顔へ花あうて枝葉を枯  
 めもすればとそりるり一木とりのまたん  
 新とさるくと根よんとは花本は花本あやまち  
 必用の盈虚家産の貧富も又然り根と志  
 れて枝葉の葉と生と死ふんり花と好いと  
 ちり花よりのまたん人またりるりゆくと

花本の花の葉えと顔り根株よる花は花を  
 する葉と一葉本の葉と死り葉葉の葉と花毎  
 へちる花葉本とす一葉人花とと顔して  
 英目るりくと葉へくと顔して面目る死と  
 英目るりくと人英目英目と顔してすき好むと  
 面目る死と人英目英目と顔して好むと  
 組一と好むと好むと英目の葉ととす好むと  
 花と好むと好むと好むと好むと好むと  
 好むと好むと好むと好むと好むと

英目と好むと好むと好むと好むと好むと











内の人か悦ひ慕ひ喜まへ何甲のつ辱へんこと  
さ一是榮辱の分と明くく一疾一のふれり  
臨一福一とくともくく一かひて無益の費用  
よ困一ともふ喜ひる一これと必れり人足  
知る一して好む一つ死一也

長い心と心とすうこと自然の勢ひ之れよ志上  
の好むふふ又い長下令と待すては人志上の  
悦ひるふふ又人長下林と待すてはむむ志上の短  
歴然たりす人万石ふふなる十人の身よも是亦  
天分と疾一ちりて榮辱を極遠一くわんきと益の

う所りよ俸禄が費し身分が親愛の富と保ちて  
分のたぬぬ貧窮よとすたへんことぬれ死後と  
用を忘るう人心懸り死生一但一甲冑の修練へ  
少金してつ度すれと必率十のいおる一太刀  
刃の中身したた一うわの孫まとも用おの害  
形一衣被器用一三流と好むその若さかかして  
終身物好の止事すう一妻子の存せぬは只る死と  
身目として存云の身支よさうか初す終役す  
下女の多き奴身目として生死の場しては後  
へ死結ぶる意と臧省一仲間小老の三上り一死と





のくも四年目少く平癒すべしとてし  
用を去りて七月目より治一極まで病を治し  
醫者の治療のとうぬりむる病人の大勢く不  
幸を生と止めんとすもこの也

對糸侯同書

以別紙に上り表を表し候に字を飛字取も不  
又之もあはれはりま復多くケ條に治すも在調に  
ふり不致しむす忌入改書仕れりて幸入清後を  
此在れは精辨弱く病成貴成と在患也一ケ候  
よふ極成に病成れは治すてふ年記仕れりて  
是上り候事何れも在候 清患成貴成候

一 清風と學同所ヲ此道立候に治すてふ

清先祖極よりく風俗ヲ失ひ不<sup>レ</sup>善人<sup>ニ</sup>在候仕れ候に  
在極成とす所極とて人<sup>ノ</sup>利口<sup>ニ</sup>貴成候に在極成と





此身は夫より先ッ師と成り人けあッ能く爲す事  
 先ッ一ツを師人と成へりとも百人の師人ツ候ハハ  
 予未との人らりあふふ事さるるの師人ト云ハ孔子  
 三子の才子才人ト執矣才子才人もくく人徳と別  
 版行の才珠矣ト云盡ッ一候ハお見存申ハ此條  
 聖人の徳化ト云何しも善良の才に成り大ハ大  
 小ハ小ト云々世界ノ用ニ立ッ人ト云ハお見存申を人  
 の此徳ニテモ此一候ハ成へ立テラレゆゆのハお成りとの  
 うと云存を併と人善良に成り人ト云云云々  
 一師長の人と成へりゆゆの徳ハトモアレト云云々

此身は夫より先ッ師と成り人けあッ能く爲す事  
 先ッ一ツを師人と成へりとも百人の師人ツ候ハハ  
 予未との人らりあふふ事さるるの師人ト云ハ孔子  
 三子の才子才人ト執矣才子才人もくく人徳と別  
 版行の才珠矣ト云盡ッ一候ハお見存申ハ此條  
 聖人の徳化ト云何しも善良の才に成り大ハ大  
 小ハ小ト云々世界ノ用ニ立ッ人ト云ハお見存申を人  
 の此徳ニテモ此一候ハ成へ立テラレゆゆのハお成りとの  
 うと云存を併と人善良に成り人ト云云云々  
 一師長の人と成へりゆゆの徳ハトモアレト云云々













ヲ懐ミ予一ツクハ温素敦厚ハ詩ノヲシヘナリト  
有クハ詩と作りヤ人ハけま又と懐ぬる一ツクハ  
ウ身ハけ場より詩ニハぬるもさう人抱モソツコウハ  
温和ニナルベキ一ニ身ハ我懐我執ツヨクナリハ詩  
のワキ及ヘリ名人ハ一ツ身ハ詩ヲ學ぶと文と作ルモ  
君子ノ所作ニシテ君子ハイカナル人ヲ云フ少人ハ  
也何なる人と云フヤ所ヲ毎ヘテ度りニシテ在ハ  
人の一ツクある様ニホクくあるぬまうみ古屋屋  
名云とテ抄一並れりるを理義ヲと人毎ヘ刻ハ  
ぬるまを及まむるニ不致して人等ぬるまを

を理義ヲ毎ヘテ少人共物ヲよミ師の教ニ在ハルハ  
公其れり一ツ身ハソレモ出来又ハ書物とト師  
師の教ニ在テより生ハたる不有少人ニ在シ君子  
ノ多クある様ニ不有少人の一ツクある様ニ在  
る上ノ所教をより大勢人ヲ集メルハトモズレニスリ  
アゲミガキ上及まぬ所同所ヲ取テ後ハ後下後  
以テしたれぬも學問所ヲ取テ後ハ後下後  
抱クニ重キ職ニ在テ一ツ身ハ心成ニ寸寸也忘レ  
中間ハ所長のツトメニツ身ハ忠長ハ出テ不ヤラ  
不忠志ノ出ヌヤウニ孝子ハ出ストモ不孝その一也ぬ





此其法をく子廣く教經をゆる神を講ヲ用キ  
り日入一焼麻之下としてお出り月一向子と爲して  
納りて子孫授老中之指邊して堂のお後と爲  
物ヲお教り白き舟と分チ貴人の堂上儀老ハ常下  
居並ひヤリを講ヲ終リヤリ老臣執政を悦だく  
名を之く堂ヲ作り是レ一了チ評議を中しそ時  
おさそチ法一ゆる命をの山産ゆる始終ハケ板ハ  
吾々より必定ミテ在り万先朝増作ハ此止マテ下ハ  
貴賤の席と定メ講目と分チ上分ハ一月六度  
中分ハ廿度下分ハ二度とお定メテ度々相講日

出席ハお五時ヲ以て定ム一お時入る者彼の門と  
候一たとい大臣を自りてと門より降りゆる候と  
て下りお出りゆる七百人少人位ハ納りてヤリ候  
表ハゆる凡言實の表ま爲へ子孫の集りてままりと  
此のぬ扇に由定メテ下度と一連一ゆるをさる  
りてお止ミヤリ候ゆるつとと堂にて杯ハ有之ハ  
近年督事も三代目人々の存無も有之候教も  
爲くお出りゆる規則ハ私の立テ並り色々お教  
人と出れりも同様の儀然として二度之稱業も急度  
有之上々名代ハ貴位ノ老臣大紋としてお執りヤリ



先ッテ振ふるもの此座外子彼を編くんとし作り  
場〜ゆるん限りと無く〜りりして有と云ふ

一此等同行ラ此之ヲ悉括ル存ラシ此等の人俗質更ラ  
失ハ不中浮虚なる一奴屬〜〜〜不所要ニ此座ハ  
夫ハハ夫更〜〜〜り士ノ職ヲ与リテ下ノ貴族  
一因、我ニ〜〜〜死ハ〜〜〜存ル振、彼更ハ此ハ  
他心への吹聴ハ此等の政々〜此等の罪民ノ死振と  
彼等ハ〜〜〜吾上の此儀と存存ル此名ハ此名ハ入用と云  
ハ不不ハ入用と云〜〜〜此名ハ此名ハ入用と云  
此方不ハ十五万石を上の〜〜〜此名ハ此名ハ入用と云

此座外浮虚〜〜〜振更ハ〜〜〜多〜〜〜振と云云  
〜〜〜夜ハ〜〜〜所ハ師長〜〜〜教ハ方学生ノ學子〜〜〜  
有〜〜〜外逃〜〜〜学生等ノ詩文ハ出精ハ傳ハ傳ハ  
仕ハ先日未ダ参リ悦〜〜〜此方宜教〜〜〜  
此人の心某〜〜〜手抄書振〜〜〜此秘英是〜〜〜  
〜〜〜存〜〜〜参リ与詩文傳内、持者ハ〜〜〜是とある盛  
學彼〜〜〜是〜〜〜の評ヲモ信ハ〜〜〜坐〜〜〜此ハ  
〜〜〜〜〜〜〜ハ〜〜〜也〜〜〜也〜〜〜此ハ又〜〜〜  
〜〜〜参リ与止〜〜〜先此形他〜〜〜此〜〜〜此ハ  
〜〜〜然振〜〜〜此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ







二十有一年嗚乎舊矣先師賜書余家  
 甚多而此牘尤深感人謹裝以貽之于  
 子孫  
 文化十四年冬十一月樺公禮拜

新卒恭為後事之始為其抄孫山安福孫文令孫  
 令女孩笑出笑之目出處出送海之氣之至其目出處  
 少飯中食少無恙致如之其安之之之

一 去年追之其書其年之其歸致其父之其其念之  
 其校也追之其造之其造之其造之其造之其造之  
 其年之其之其造之其造之其造之其造之其造之  
 其國造之其舍之其之其之其之其之其之其之  
 其造之家造之其功也追之致其其之其之其之  
 其其其其其其其其其其其其其其其其其其其  
 其法其其其其其其其其其其其其其其其其其其





候へ未降候。唐藩玉弁より板子を致感んる上日振之  
 旅の九月廿日、南境板谷界と云ふ所を授け、督学（理業）  
（督学）神保行が間あり、其出命（命）方（方）より解使入也  
 多く是年、其處に想ふの日は、領下り府城より三里天降  
 ち、降ぶる所を候程、我部近之妙法おぼす所を、  
 八つと相違堂と申地とあり、んは、南郊一里五六丁と  
 府城より、所は、板子候の儀、衝を、おん、月五六丁  
 橋下り、出、し、不音門院と申寺の門あり、板子候、  
 俯伏後、路の中心、立、た、表、符、の、道、と、申、し、  
 地、子、を、板、子、候、の、處、と、申、り、地、と、申、り、て

卷洋と有、板子候、意、非、是、跡、と、申、り、洋、と、申、り、先  
 何、と、云、ふ、と、申、り、板、子、候、の、處、と、申、り、向、き、と、申、り、  
 藩、田、先、生、安、泰、と、申、り、し、中、津、内、と、申、り、寺、門、と、申、り、  
 お、門、より、中、門、と、申、指、作、き、り、三、丁、津、の、坂、が、是、  
 と、申、進、り、中、門、と、申、り、一、歩、と、申、り、板、子、候、の、處、  
 候、と、申、り、板、子、候、の、處、と、申、り、  
 板、子、候、の、處、と、申、り、  
 板、子、候、の、處、と、申、り、  
 階、上、り、堂、板、と、申、り、俯、伏、と、申、り、  
 例、に、お、知、り、通、梓、讓、と、申、り、漸、對、座、お、つ、ろ、と、申、り、  
 何、と、申、り、及、云、候、と、申、り、板、子、候、の、處、と、申、り、  
 何、と、申、り、及、云、候、と、申、り、板、子、候、の、處、と、申、り、

















と致す情の足拙作の

一 三宅と神鏡有因之辨、睡と之が事、不及、之は是也、  
 致すも何重、之の存、其位、其志、劇、職、中、文、雅、ヲ  
 不、廢、面、向、之、足、之、竹、若、夫、勿、論、中、條、之、俗、人、あ、し、俗  
 者、之、面、向、く、咄、合、之、神、係、當、向、上、之、智、量、用、人、ノ  
 是、事、政、談、之、多、く、以、人、之、愛、之、之、片、山、紀、之、未、文、職、ヲ、轉  
 一 那、事、以、お、致、之、事、傳、之、人、要、務、之、職、之、事、也、此、致、リ  
 所、之、人、或、難、極、法、出、一、般、之、不、以、人、致、す、の、お、致、之、の、  
 之、川、之、之、子、繩、之、入、用、之、之、之、民、之、事、和、之、之、人、ヲ、其、用  
 之、之、不、能、感、之、之、

一 五十二日、遠、海、雪、小、降、リ、之、月、是、非、形、リ、十、月、亦、自、未、降、リ、  
 貴、一、之、日、未、日、迄、候、駿、河、之、反、位、之、美、ハ、尚、主、の、席、也、又  
 相、見、事、之、也、前、郊、送、之、儀、漸、儼、然、新、旧、お、忘、一、院、送、リ  
 之、ル、之、一、里、傳、南、郊、相、見、堂、之、別、之、之、未、候、ヲ、抄、一、院  
 之、儀、候、出、之、事、之、也、此、神、保、之、送、之、儀、人、ヲ、引、連、合、之、以  
 板、谷、突、之、送、リ、之、別、離、の、怨、出、悲、儀、之、儀、外、生、儀、之、也、  
 再、遊、之、事、之、也、此、川、茶、屋、辨、魂、之、儀、因、之、之、儀、十、月、九、日  
 未、降、之、事、之、也、此、橋、田、より、近、彼、千、住、之、在、出、一、座、中、飯、之、也、  
 中、座、之、事、之、也、此、丁、寧、不、及、之、儀、候、之、生、儀、之、儀、  
 旅、之、儀、也、之、事、格、之、通、之、也、馬、之、儀、之、之、之、儀、之、俗、吏、の





物扱ハ米俵トシ有クハ何モ儀ニテ吸付一ハ酒昔汁モ  
 意ラ例々通をトお取ルルマナリ志取ルルモト云フコトお流  
 有クハ海リ有クハ悪ハモ突ハモ意ナクモ幸ハ幸附身  
 入りヤル馬ハ門中トシモ此ハル振トシヤル儀先ハ取知モテ  
 御門の内ニキミノホトリニテ牌モ理ニ清シルル上奥有クハ  
 礼ハ波高トモ木板トモ意及申付トモ毎板十四日ニ抄而  
 櫻田ハ入ナリトモ自交欽飲家ハ取納リル市谷郵便ハ及  
 中澤里トモ赫物トモ一ノノトモ有クハモテ村伊勢モ  
 ナリハ家来トモモ一志取ルルル不都合トモ有クハモ  
 何モモモ子持トモト由ラヤルモテ流取ルルル一トモ意の

備前ノ季モ及ナラ歎一トモ有クハ取ルルモモモモモモ  
 溪町トモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ  
 及流モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

一 上田兼川 二年ハは合モモモモモモモモモモモモモモモモモモ  
 子トモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ  
 料理トモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ  
 越流モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ  
 入見由モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ  
 又モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ  
 門ハモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ



け度のおりおぼくは身元保と盡すべしと存りて又も存  
 りつ了しむる散々風邪十七日平外ソリヤヨソ疎破ると  
 醫師いふとこころいふゆゑ行々若く解熱しヨリ漸々  
 快復飲食を復しけしやの全人にお成り始むるお咄七ッ  
 けりお仕詰方也勅も大方明日切りと決りけり今日々  
 此書、徳メアハお安んづるトハ今もさうお成り今も元  
 又の事とてお成り相々存心は是れは、越へし世候と  
 悪ん哉と妻子及と若くし言ふ面懐、代へし書  
 徳メアハお成りとて救へ存心は、又コレも面懐、是下け

一 一アハバスムーと格古ニテアキを廣く他ハハお成り用  
 此に徳ハお成り存心は、是れ

一 一とて志しつるうすのめは、法度家礼を忠厚く去る意  
 悔後日く徳の娘とありしれ、お折々ありぬ者、お成り  
 好婦、心有とく、お成り人し、お成りの内、お成りの様、  
 是れ、お成り者人、是れ、お成り痛、お成り、お成り、お成り、  
 是下の事、お成りとお成り、お成り、お成り、お成り、  
 此の事、お成り、お成り、お成り、お成り、お成り、  
 不自生、お成り、お成り、お成り、お成り、お成り、  
 一 巴左仲子、お成り、お成り、お成り、お成り、お成り、





讀執而讀之一字一淚使人慨焉憶往日先生而有知不亦咲泣九閻之上耶文化十五戌寅清明前一日七十六翁神行簡拜

此乃... 遺字... 撰... 述... 乃... 矣

先君子平洲先生國字遺書存篋笥者若干卷所應于諸侯及諸子需者十居七八焉辭世已久矣人或借太間有散逸余每憂之會舊門生來集語次及之僉曰隻字拱璧不可不重假令借者愛護亦恐轉寫之誤貽瑕於夫子不可知也私刊而眎之何如余甚然之於是有

斯舉匪敢公諸世也

天保乙未歲仲春

男 德昌 謹識



門人西條上田葺書





愛知県



1103183310